



土曜日の教育活動 事例集



平成 27 年度
「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究」
文部科学省

はじめに

未来を担う子供たちを健やかに育むためには、学校、家庭及び地域住民などがそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子供たちを育む体制づくりを目指す必要があります。そのため、文部科学省では、学校・家庭・地域が連携協力し、様々な教育支援活動を行う取組を推進し、「学校支援地域本部」や「放課後子供教室」「土曜日の教育活動」等の取組を支援しています。

その中で、文部科学省では、平成26年度より、地域や企業等との連携による土曜日の教育活動を推進しており、学校等の土曜授業等に企業・団体等（土曜学習応援団）が出前授業等を行い、子供たちに多様なプログラムを提供しているところです。

本レポートでは、土曜日の教育活動を実施する企業・団体、それら企業・団体と学校や地域を結びつけるコーディネーターの実践事例を紹介いたします。ご参考にしていただけたら幸いです。

土曜日の教育活動について

土曜日の教育活動は、「土曜授業」「土曜の課外授業」「土曜学習」の主に3つの活動に分けられます。

①「土曜授業」

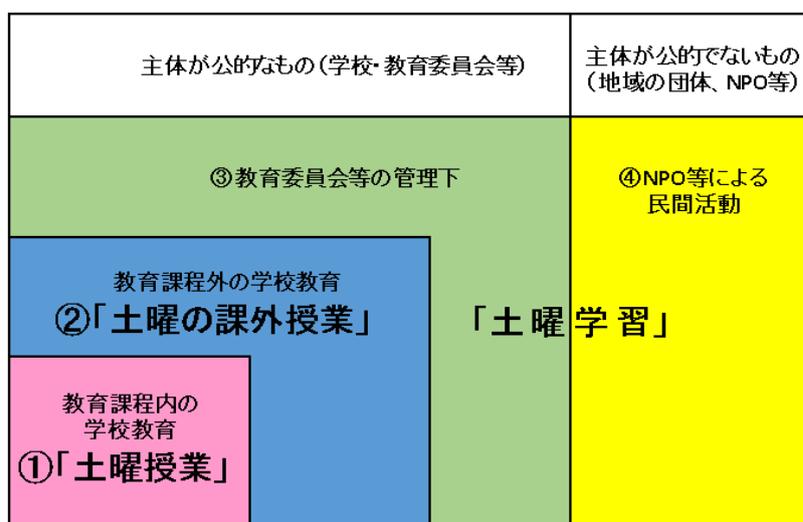
児童生徒の代休日を設けずに、土曜日を利用して教育課程内の学校教育活動を行うことをさします。

②「土曜の課外授業」

学校が主体となった教育活動ではあるものの、希望者を対象として学習等の機会の提供を行うなど、教育課程外の学校教育を行うことをさします。

③ ④「土曜学習」

学校以外の教育委員会や地域、NPOや企業などが主体となって、希望者に対して学習等の機会を提供するもので、主体が公的なもの（上図③）、公的でないもの（上図④）などが行うことをさします。



土曜学習応援団について

土曜学習応援団とは、土曜日の教育活動の意義にご賛同いただき、土曜日の教育活動を実践する企業・団体のうち、文部科学省に登録された企業・団体の総称です。

【土曜学習応援団HP】 <http://doyo.mext.go.jp/>

<目次>

企業・団体の部

■土曜授業

- ・ 森林インストラクター東京会 P. 5
- ・ K D D I 株式会社 P. 6
- ・ ミサワホーム株式会社 P. 7

■土曜の課外授業

- ・ かぶとむしサークル 久山サークル TOSS いろは P. 8
- ・ 日本学生社会人ネットワーク (JSBN) P. 9

■土曜学習(主体が公的なもの)

- ・ 特定非営利活動法人 ALARE P. 10
- ・ みその学校サポート P. 11

■土曜学習(主体が公的でないもの)

- ・ 日本建設産業職員労働組合協議会 P. 12
- ・ 一般社団法人日本損害保険協会 P. 13
- ・ 公益財団法人計測自動制御学会 P. 14
- ・ 株式会社ダスキン P. 15
- ・ 株式会社富士通コンピュータテクノロジーズ P. 16

■土曜日の教育活動全般(上記いずれにも区分出来ない/全てに通じる場合)

- ・ 一般社団法人全国銀行協会 P. 17
- ・ 日本証券業協会及び協力協会員 (証券会社) P. 18
- ・ 野村グループ P. 19
- ・ パナソニック株式会社 エコソリューションズ社 P. 20

コーディネーターの部

- ・ 一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会 P. 21
- ・ 特定非営利活動法人キッズバレイ P. 22
- ・ 特定非営利活動法人アスクネット P. 23
- ・ 京西中学校区地域教育協議会 P. 24

※日本学生社会人ネットワーク (JSBN) は、コーディネーター機能も保有していますが、重複するため、企業・団体の部として掲載しております。

企業・団体の部

小学校から高等学校までの児童・生徒を対象として
土曜日の教育活動に取り組む企業・団体等の紹介

■ 森林インストラクター東京会 Forest Instructor Tokyo

企業・団体名	: 森林インストラクター東京会 (FIT)
企業・団体 URL	: http://www.forest-tokyo.org/index.html
実施プログラム	: 田園調布学園 (中等部・高等部) 土曜プログラム
対象	: 中学校 1 年～3 年、高等学校 1 年～3 年
エリア	: 東京都世田谷区 (その他活動エリアは都内、多摩地区等都内全般)
教育支援活動開始時期	: 2002 年

【実施体制】
昨年を振り返り、今年は新しい観点から「自然の中で癒しを体験しよう」を実施。
講師陣がマンネリにならないように 2 から 3 年ごとに世代交代を心がけており、講師の発掘とスキルの伝達及びレベルアップを心がけている。

活動開始経緯

2002 年の秋に田園調布学園中等高等学校から総合学習の土曜プログラム「私達と森林」というテーマで講座依頼があり、学校教育に貢献する必要があるとの観点から始まった。以降、2015 年度まで 13 年間に渡り毎年 8 ～ 10 講座を提供している。

活動の概要

- ・「森と私たち」をテーマに、広く自然と人のかかわりをさまざまな分野から生徒たちに伝えている。
- ・いろいろな観察を通して自然とはどのようなものなのか、その中で人はどのように生きてきたのか、今まで見えなかった自然の姿を身近な自然から知ってもらう。
- ・クラフトなどを通して自然を取り入れた生活の一部を体験してもらう。

活動の様子



学校周辺で手に入る素材を取り入れたり、学校周辺の地域・場所を利用し、プログラムを実施。
「草笛教室」「花炭を作ろう」
「初めての草木染めに挑戦」 等

森林インストラクター東京会の中で「田園調布学園担当」を配置し、13 年間継続して取り組んでいる。



プログラムの一つ「自然の中で癒しを体験しよう」

「森林セラピー」の世界へ
シマサルスベリの木の上にレジャーシートを敷いて、ゴロンと寝て見上げる。こんな体験をしたことがありません。
秋の空の気持ちのいいこと！

企業・団体名	: KDDI株式会社	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">【実施体制】</p> <p>学校単位での申込みが基本であるが、教育委員会が窓口となって実施するケースが増えている。 兵庫県では、産官学連携で学校を中心として地域一体となった啓発活動を実施。</p> </div>
企業・団体 URL	: http://www.kddi.com/	
実施プログラム	: KDDI ケータイ教室	
対象	: 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、 保護者、教職員	
エリア	: 全国	
教育支援活動開始時期	: 2005年	

活動開始経緯

インターネット、特にケータイやスマホを通じて発生する青少年のトラブル増加、トラブルの若年齢化が進むなか、これらのトラブルの低減はKDDIの社会的責務と考え、子ども向けケータイ・スマホの提供やフィルタリングの充実などサービス面での改善に加え、啓発活動として2005年度より「KDDI ケータイ教室」を開始している。

活動の概要

- 子どもたちがケータイやスマホを利用する際に守ってほしいルールやマナー、覚えておいてほしいケータイ・スマホやインターネットにかかわるトラブルや事件・事故の事例を紹介し、子どもたちが自らの判断でリスクを回避する能力を身に付けていただくための講座。
- KDDI ケータイ教室認定講師(※)が学校などにお伺いし、スライド資料、映像教材などを使用し、講座を行う。開催前には講師がご担当の方との綿密な打合せを行ない、講座を実施。講座は無料で、教材、講師派遣に関する費用なし。
(※) KDDI ケータイ教室を担当するための認定試験合格者。

活動の様子



ケータイ・スマホによるトラブル件数は年々増加しており、学校現場や各地域で発生している。これらのトラブルの低減は、携帯電話サービスを提供する通信事業者の責務と考えている。これらのトラブルにあわないための教育のニーズは多数あるものの、学校現場で教職員自ら実施することは難しいという声も寄せられている。そこで、ケータイ・スマホの専門家である携帯電話会社の社員であり、認定試験合格者であるKDDI ケータイ教室認定講師が講座を行っている。



実際の講座実施にあたっては、担当の先生と事前電話打合せを行ない、学校のニーズや実際に発生しているトラブル、講座で取り上げる題材などを細かにヒアリング。そして、標準教材を学校毎のニーズにあわせカスタマイズし、各学校や地域のご要望にあった講座を実施。地域を問わず講座を引き受けている。

一例として、2015年度は屋久島、奄美大島、種子島ほか離島地域での開催実績がある。地域により情報格差が生じないように努めている。また、米国、中国、ベトナムなど海外の日本人学校で、帰国前の子どもたちを対象とした開催実績もある。

■ ミサワホーム株式会社

企業・団体名	: ミサワホーム株式会社	【実施体制】 北海道から九州まで、全国にあるミサワホームグループの拠点、担当者がその地域、エリアの担当窓口となり、開催校と打ち合わせ、フォローを行う。
企業・団体 URL	: http://www.eco.misawa.co.jp/antarctic-class/	
実施プログラム	: 教育支援プログラム「南極クラス」	
対象	: 校種、学年問わず（幼稚園年長～高齢者大学まで） 特別支援学校等でも実施可。	
エリア	: 全国	
教育支援活動開始時期	: 2011年	

活動開始経緯

東日本大震災、特に津波被災地域では、甚大な被害を被り、その惨状は想像を絶するものであった。その惨状を、故郷を、これから何年も何十年もかけて復興して行く中心となるのは、被災したその子ども達。その子ども達に、なんとか夢や希望を持ってもらいたい、未来に向かって元気に歩んでもらいたいとの願いから、南極クラスはスタート。

活動の概要

- ・「本物」、「体験」を授業の根底に置き、通常の授業ではなかなか触れることの出来ない内容を中心に、理科や社会の教科分野のみならず、隊員たちの仕事内容や職業観など、総合教育、キャリア教育として幅広く伝えている。
- ・長年にわたり南極昭和基地建物建設の支援を行っているミサワホームが、自社の観測隊員経験者を講師として、南極を題材に子ども達に夢と希望を届けることを目的に、日本が南極観測で取り組んでいることを次の世代に伝えるため、教育の現場との連携も進めている南極観測事業の中核の実施機関である国立極地研究所の協力を得て、全国にある学校、教育団体等と連携し立ち上げた。

活動の様子



ミッションを成し遂げるための仲間への思いやり、チームワークの大切さ、厳しくも美しい自然が織りなす驚きと感動、人間活動の影響をほとんど受けていない南極からの「地球の過去そして未来」を伝えたいと思っている。

離島でも実施。4名から1000名超えまで対応あり。
南極先生としての社員は、現在、専任2名、兼務4名の体制で全国を担当。



体験学習の一つとして、実際に自分の手で触れてもらう。さらにコップに移して水を注ぎ、2万年前の大気が弾け出る音も聞いてもらう。

【授業で使用するもの】

南極昭和基地で実際に使用した越冬服・風速60mの出るブローア・簡易風速計・2万年前の南極氷・隊員が撮影した写真、動画(実験、オーロラ、動物等々)

■ かぶとむしサークル 久山サークル TOSSいろは

企業・団体名	: かぶとむしサークル 久山サークル TOSSいろは	【実施体制】 子ども向けの百人一首教室は教員が担当。その間の母親向けの子育て学習会では、子育てに関する様々なテーマについて地域の専門的知見を持つ方と協力・実施。
企業・団体 URL	: https://www.facebook.com/tosskasuya/	
実施プログラム	: 親子百人一首教室（親は子育て学習会）	
対象	: 就学前の子ども～小学生	
エリア	: 福岡県糟屋郡粕屋町	
教育支援活動開始時期	: 2013年	

活動開始経緯

「保育園の駐車場で子育てに悩むお母さんをなんとかしよう」という発端で取り組み始めたのが2013年である。初期段階としては、セミナーで人を集めネットワークを作る。それらの中から、自主的に勉強したい人を集め親子20組での、親子百人一首教室を2015年から行っている（全5回）。

活動の概要

- ・子育てに悩むお母さんの支援をするために実施。2013年から家庭教育セミナーを5回実施して、地域のネットワーク形成。土曜日の午前中に、地元の小学校教師の下、親子五色百人一首講座（年間5回）を実施。
- ・子どもは教師の指導の下、百人一首や折り紙、工作、実験等で体験的に学ぶ場となっている。
- ・親は別室にて、子育てについての学習（発達のこと、母乳育児、花育、子育てのレポート検討、教育費等）。この学習会は、教師がコーディネートしつつも、専門的知見を持つ母親が無償で講座を担当したり、司会をしており、自主的な学びの方向へ進んでいる。
- ・土曜日の教育活動以外には、TOSS福岡の行っている子ども観光大使教室（九重部屋見学、ラグビーツアー）や親子水生昆虫採集等へ参加。日常的な子育ての悩みについてはFBグループ等で交流。
- ・2016年度は保護者主体の活動によりシフトし、教師は子どもの学習を中心に担当。2017年には母親の学習会の成果をセミナー形式で発表する予定。

活動の様子



【百人一首教室（子ども）】

授業技量を向上させる検定を持つ教員が、異年齢の子ども達（未就学から小学生）を一斉指導。五色百人一首を行っている。100枚の百人一首札ではなく親しみやすい20枚の札で行うなど、教育現場で効果を上げている教材を活用。



【親の学習会】

子ども達が百人一首を楽しんでいる間に、親は別室で落ち着いて情報交換会をする。専門的な知識を持つ親を教員がコーディネートし、子育ての課題について学習会を実施。親としての教師も対等な立場で参加。

（テーマは、ほめ方、発達について、母乳育児、花育、教育費、近況報告等）

■ 日本学生社会人ネットワーク(JSBN:Japan Students Businesspersons Network)

企業・団体名	: 日本学生社会人ネットワーク	【実施体制】 実施校の担当教諭と任意に希望した生徒によって構成されるプロジェクトチームがプロジェクトの運営主体となり、当該チームとJSBNの社会人が度重なるディスカッションを通じてプログラムを構築。
企業・団体 URL	: http://www.jsbn.info/	
実施プログラム	: 土曜出張キャリア授業 (各イベント名は学校ごとで異なる)	
対象	: 高等学校	
エリア	: 東京都・千葉県・神奈川県	
教育支援活動開始時期	: 2014年	

活動開始経緯

JSBNの活動に参加していた大学生が、2013年に自分の母校(千葉県立東葛飾高校)において、高校生のためにJSBNに関わる社会人のようにイキイキと生きるためのキャリア教育を行ってほしいとの要望があり、2014年1月から活動開始。その後、同様の経緯で2014年秋に早稲田大学高等学院でも実施。2015年は、東葛飾高校、早大学院において引き続き実施するとともに、新たに神奈川県の桐蔭学園中等教育学校でも2回実施。また、都立富士高校での講演会、渋谷教育学園渋谷高等学校のイベントにゲスト(パネラー)参加。

活動の概要

- ・様々な分野の第一線で活躍する社会人と様々な大学の大学生が、土曜日に高校を訪問し、高校生に対して、現在の世界情勢と日本の現状を伝えるとともに、そのような社会でイキイキと輝いて生きるために大切なスキルや心がけ、そのために高校時代にやっておいた方がよいこと、日々の勉強の意味づけなどを伝えるキャリア教育活動。
- ・土曜日の3～4時間程度を使い開催。2015年は3校にて合計5回実施。イベントの企画段階から一貫して高校生プロジェクトチームの自主性を尊重し、JSBNの社会人・大学生、及び学校の先生がメンター役となり、開催コンセプト、対象者、プログラム構成、ディスカッションテーマなどを検討し、イベントを作り上げていくプログラム。

活動の様子



- ・教育のプロである教員の方々、多様な経験を持つ社会人、高い問題意識を持つ大学生、そして高校生がプロジェクトチームを作り、打合せを重ねてプログラムを企画、運営。
- ・様々な分野の第一線で活躍し、仕事を通じて自己実現を図っている「イキイキと生きる社会人」が、共通する問題意識である「現在のグローバル社会における日本の現状」を伝え、高校生にこれから生きていく社会のイメージを持ってもらうと同時に、「仕事の面白さ」、「チャレンジすることの大切さ」、「自分の強みを活かすことの大切さ」など、自分らしくイキイキと生きるために大切な心がけやスキル、『未来は自分自身で構築できる』という意識を社会人、大学生、高校生とのディスカッションを通じて伝えている。



- ・社会人だけでなく、高校生にとって、より身近な存在である大学生、特にその中でも高い問題意識を持ち、積極的に日々の活動でチャレンジをしている大学生も参加するプログラムであるため、キャリアについての一貫したビジョンが持ちやすいという特徴がある。
- ・事後アンケートや先生方からのコメントでは、各プログラムを通じて、高校生たちが主体的に動くことの重要性を実感し、また将来に対する前向きな姿勢を持ち、日々の生活や授業においても積極的に活動してくれるようになった等、多くの感謝の言葉を頂いている。

企業・団体名	: NPO 法人 ALARE	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【実施体制】 雲南市の教育委員会、中学校、高等学校、コーディネーター、社会人と連携・協働。内容を全員で検討することで、一貫したキャリア教育が実現。</p> </div>
企業・団体 URL	: http://alare.jp	
実施プログラム	: 自分でつくる楽校 ～島根県雲南市×ALARE～	
対象	: 島根県雲南市の中学校 3 年生～高等学校 3 年生	
エリア	: 島根県 雲南市	
教育支援活動開始時期	: 2013 年	

活動開始経緯

“若手社会人の学び合いの場”を計 20 回開催していく中で、メンバーそれぞれの原体験から「中学生や高校生の段階で様々な社会人と関わり、なりたい自分像を考えた上で、主体的に学生生活を送ることが必要なのではないか」との想いに至り、2013 年 5 月より“中高生に向けた社会人の出張授業”を開始。

活動の概要

- ・ <中高生に、将来の多様性と自分らしさを作るきっかけ作りを>
 「ふるさとを愛し未来を切り開く子どもの育成」を信条とする島根県雲南市教育委員会と、「子どもたちに将来の選択肢の多様性を伝え、自分らしく生きることが出来るきっかけを作る」活動を行う NPO 法人 ALARE が連携し、2014 年度より、半年間に渡って毎月雲南市の中高生に対して行ってきた、社会人による出張授業活動。
- ・ 半年に渡り開催することで、一方向の知識や気づきを与えるだけではなく、生徒自身がどう考え、どのように行動に移し、行動した結果を振り返り、次にどう行動していくかまでをサポートすることができ、また、生徒自らが発信して行動できるように、社会人と生徒が 1 対 2 等の少人数制で話し合い本音を引き出すこと、社会人側の価値観や職業観、人生観についても生徒と同じ目線で語り合うことを信条としている。

活動の様子



- ・ 多様な社会人との対話
 IT や農業、福祉、教育などの分野で実際に活躍する社会人の実体験を生徒に伝えている。
- ・ 社会人による継続的なサポート
 毎月開催し生徒を継続的にサポートすることで、生徒の「自分で考え、行動する力」の育成を図っている。



- ・ 将来への活力、学習意欲などの向上
 自分の価値観や将来のイメージについて、生徒が多様な社会人と話し合うことで、学校内部だけでは得られない視点が得られ、結果として、将来への活力やコミュニケーションの大切さの実感、学習意欲の向上などへと繋がった。
- ・ 地域の特性に合ったプログラムの実施
 教育委員会と協議を重ね、「自分でつくる楽校」が、雲南市で実施されているキャリア教育の延長線上に来るように設計した。

■ みその学校サポート

企業・団体名	: みその学校サポート	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【実施体制】 学校サポートメンバーや土曜学習室の講師は、PTA卒業役員や委員、地域の学生や御園中学校卒業生を参画させ、継続的に人員が増加している。</p> </div>
企業・団体 URL	: https://misono-jhs.a.la9.jp/	
実施プログラム	: みその学校サポート 土曜学習室	
対象	: 中学校 1～3年	
エリア	: 東京 大田区	
教育支援活動開始時期	: 2009年	

活動開始経緯

2008年に元PTA会長と当時の校長で御園中学校の教育活動を具体的に支援する組織を検討、文科省の学校支援地域本部事業をモデルに、事務局と体験学習支援部会、家庭学習支援部会、光発見活動支援部会の3つの活動部会を設けることで、地域事業所/関連学校/PTA-OB・OGの協力をえて「みその学校サポート」を2009年にスタートした。

特に、家庭学習支援部会では、子ども達の学力向上が様々な叫ばれており、その一環として家庭学習の推進を図ることが必要であるが、学習意欲があるものの家庭学習が行えない、やり方がわからないなどの子ども達の学習支援を重視し、土曜日の補習教室の取り組みとして「土曜学習室」とし、地元の学習塾であるシーエーティ学院蒲田校（指導講師）、大正大学/國學院大学の学生（講師）と連携し、「土曜学習室」を運営するとともに、数学科/英語科の先生方と学習状況を連携するなど、学力向上を目指して活動をすすめた。

活動の概要

- ・みその学校サポートは、大田区立御園中学校の一層活発な教育活動が進むように、地域ぐるみで支援することを目的とし、2009年から長年支援するなど教育の充実を図っている。
- ・みその学校サポートの活動として「家庭学習支援部会」があり、希望者への補習授業として地元塾（シーエーティ学院蒲田校）と連携し「土曜学習室」を行っており、年間通しての「授業プログラム」、生徒への「ガイダンス」の開発や講師大学生のための「ランチミーティング」の実施など、土曜学習室の効果を高める取り組みを進めている。

活動の様子



- ・講師は主に生徒と年が近い大学生で主に構成されており、今年度はその半数が卒業生であり、生徒と意思疎通しやすい関係にある。また、生徒のニーズと学習内容のマッチングを図るため、第2回の実施後に生徒/講師の茶話会を実施し、生徒と講師の親睦を図るとともに、教えてほしい内容、生徒の知りたい勉強教方法などの話し合いをおこなっている。



- ・「土曜学習室」の実施にあたって、プログラムは地域の学習塾（シーエーティ学院蒲田校）に協力を得て、授業学習課程をベースに年間10回の学習内容を決めている。実施にあたっては学校サポート/学習塾/学校で年間予定/内容を協議のうえ決定し生徒募集を行っている。
- ・各回の実施後には、授業内容の反省/まとめの会を実施し、各クラスの授業状況や生徒個人の状況を講師/指導講師/学校サポートで情報の共有、次回への改善など話合いをしており、内容については後日学校へ報告するなど状況を連携。

■ 日建協(日本建設産業職員労働組合協議会)

企業・団体名	: 日建協 (日本建設産業職員労働組合協議会)	【実施体制】 実施にあたっての必要な材料は日建協にて手配。子ども達の気づきを大切にするため、極力アドバイスやサポートをしないことを心がけている。形やデザインのアレンジは無限のため、継続開催も有効。
企業・団体 URL	: http://nikkenkyo.jp/	
実施プログラム	: ストローハウス	
対象	: 小学生	
エリア	: 東京都	
教育支援活動開始時期	: 2006年	

活動開始経緯

日建協では、「建設産業の魅力やゼネコンの仕事を正しく理解した上で一生の仕事を選択してもらいたい」との思いから、土木・建築を学ぶ大学生を対象に、2006年より全国で出前講座を開催しており、現在までの開催総数は延べ50回。また、特に幼少期の子供たちに対して、「実際に子供たちに手を動かしてもらえる参加型のイベントであれば、もっと建設の仕事を身近に感じてもらえるのではないかと考え、「ストローハウスを小学生向けの出前講座で行いたい」という考えに至った。

活動の概要

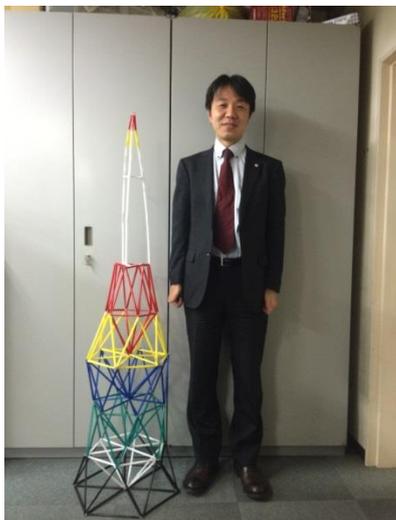
- ・「仲間と一緒に世の中の一つしかないものをつくり上げる『建設』という仕事をもっと子供たちに知ってもらいたい」との思いから、小学生を対象に、建設の魅力に触れて頂く出前講座を開催。
- ・「ストローハウス」では、班毎に簡易な設計図を作成し、60分から90分の制限時間内で、6色150本のストローと200個のクリップだけで建築物をつくり、「高さ」「美しさ」「強さ」を競うもの。
- ・二次元（設計図）を三次元（建築物）に変える難しさ、役割分担や時間配分の大切さ、異なる意見をまとめる大変さ、仲間と一緒に作りあげる一体感など、ストローハウスを通じて、ものづくりのやりがいや達成感を子供たちに実感してもらいたい。

活動の様子



ストローハウスは、実際の建設プロジェクトと同様に、設計図を書き上げてから最後に建物を完成させるまでの全工程を体験。実際に自分の手を動かすことで、建設の楽しさや難しさ、達成感をより深く実感して頂くことを目的としている。

作り始めると設計図通りには作れないことに気付く。ストローハウスはストローとクリップだけで作るため、簡単には建ち上がらない。実際に手を動かしてみることで、「基本型の三角錐や立法体は知っているイメージ出来ても、実際に形にするのはこんなに大変なのか」ということを発見することをねらいとしている。



世の中の様々な建築物が人の手によって作り出されているということ、そして、一人では何も生み出せず、様々な仲間や周囲のサポートがあるから出来るということ、だからこそやりがいや喜びが何倍にもなるということに気付く。

簡単そうに見えてとても奥が深く、一度体験したら次はもっと高く美しく強い建物がつくりたくなるこのプログラムは、子供たちの創造力向上に極めて有効。お父さんが建築設計を行っているという参加者の小学生は、「建物の設計という仕事の難しさを知ってお父さんを尊敬した」と語ってくれた。子供たちと実際の仕事を結びつけるキャリア教育の面でも、非常に有効なプログラムであると考えている。

企業・団体名	: 一般社団法人日本損害保険協会	【実施体制】 学校や地域コーディネーターと目的を共有した上で、防災にかかる基本的情報を団辰したのちは、地域の実情を把握している地域コーディネーター等が主体となって地域に応じた方法で取り組んでいる。
企業・団体 URL	: http://www.sonpo.or.jp/	
実施プログラム	: ぼうさい探検隊	
対象	: 小学生	
エリア	: 全国	
教育支援活動開始時期	: 2004年	

活動開始経緯

「ぼうさい探検隊」は子どもたちを中心とした地域の防災意識高揚およびコミュニティ強化を目的として、2004年から実施している。土曜学習の枠組みのなかで実施することで、子どもたちの学年を超えた関係性構築、地域に影響力がある学校関係者（コーディネーター等含む）の防災意識高揚等につながり、「ぼうさい探検隊」の目的をより高い水準で達成することが可能となることから、2014年12月に土曜学習としての活動を開始した。

活動の概要

- ・子どもたちが楽しみながらまちにある防災・防犯・交通安全に関する施設や設備などを見て回り、身の回りの安全・安心を考えながらマップにまとめ発表する、実践的な安全教育プログラムである。
- ・半日から1日で実施でき、子どもの安全教育に役立つことに加え、子どもたちの友情の芽生えや、大人を巻き込んだ地域のコミュニティの強化にもつながる。

活動の様子



・「ぼうさい探検隊」は、多発する自然災害や交通事故、犯罪などに対する子どもたちの意識を高め、ひいては社会的損失を軽減させることを目的に、当協会がこれまで蓄積してきた知識・経験などを基に子どもたちが楽しみながら学べる安全教育プログラムとして提供しているものである。

・子どもたちが自分たちの住んでいる地域を探検し、新たな発見を得ることを通じて地域特性に応じた潜在的な危険性や防災施設・設備などを学び、防災意識を高めることができる。また、子どもたちが自主的に探検、発見することで興味・関心を高めるような内容としている。

2004年度から12年間、「ぼうさい探検隊マップコンクール」を毎年開催している。小学生向けの安全教育プログラムとして効果的であることが認識されており、全都道府県からの応募にみられるように、活動は全国に広がっている（12年間の累計参加状況：3,960団体・18,542マップ・児童132,019名）。

小学校3～4年生の社会科の教科書ほぼ全てに「防災（通学路安全）マップ作り」の記載がなされるなど、まち探検の重要性が高まっており、学校側の教育活動にも沿った内容となっている。

企業・団体名	: 公益社団法人 計測自動制御学会	【実施体制】 開催地に在住する本会会員の大学の先生や企業研究者を中心に実行委員会を組織。事業提供ノウハウが実行委員会を経験した本会会員に蓄積されるので、以後のその地域での土曜学習などの事業企画に継承される。
企業・団体 URL	: http://www.sice.jp/	
実施プログラム	: SICE WEEK 2015 (サイズウィーク 2015)	
対象	: 小・中・高校生 及びその保護者、一般の方々	
エリア	: 全国 (毎年、本会年次大会開催エリアで実施)	
教育支援活動開始時期	: 2002年	

活動開始経緯

21世紀に入り、科学技術の進歩により知の総量は増しているが、それぞれの知が細分化され、それ単独では社会の役に立たないと感じられることが多くなった。この細分化された知を、一般社会が求める価値の創造につなげるためには、この細分化された知を統合していくことが重要。未来を担う若い世代の人たちに、早くからこの「知の統合」の重要さの気づきを与え、実社会で求められる価値を創造する芽をはぐくむことが、私たち学会（特に計測制御システムという学際横断的な科学技術を取り扱っている本会のような学会）の重要な使命であると考え、土曜学習の提供を中心に2002年から継続してSICE WEEKを開催するようになった。

活動の概要

- ・ SICE WEEK は、公益社団法人計測自動制御学会（SICE：サイズ）が主催する体験型・対話型の科学技術コミュニケーション活動。科学工作、科学学習教室、講演会等を通じ、広く小中高校生から一般の方々までを対象に、計測自動制御技術がいかに社会に役立っているかを知っていただくために実施する参加費無料の土曜学習。
- ・ SICEWEEK は、毎年、大都市と地方都市で交互に開催される SICE の年次大会（学術講演会）と併せて開催するため、SICE WEEK も全国で提供。
- ・ SICE WEEK を実施する実行委員会は、開催地に在住する本会会員の大学の先生や企業研究者を中心に組織されているため、その事業提供ノウハウが実行委員会を経験した本会会員に蓄積されるので、以後のその地域での土曜学習などの事業企画に継承されている。

活動の様子



2015年は国際光年であったこと、開催日（9月12日）の直後（同月28日）にスーパームーンの観測が可能であったことなどを勘案し、SICE WEEK2015は天文をメインテーマとし、天体望遠鏡の工作教室を中心に実施とした。

宇宙の神秘や地球外生命体の探索といった夢のある話から、国立天文台で開発中のTMT天体望遠鏡（ハワイに建設中の直径30mの天体望遠鏡）の鏡面の角度調整に最先端の制御技術が用いられていることなどにも触れる講演会を行い、「知の統合」の重要さに気づいてもらうように工夫



講演会の話を理解することが難しい小中学生のために、実際に鏡面が動く1/150サイズのTMT天体望遠鏡の模型を東京国立天文台から借り受けて展示。参加者に興味を持ってもらえるようにした。

天体望遠鏡の工作教室が難しい小学校低学年向けに、受動歩行ロボット（坂道を自重で歩くおもちゃのロボット）の工作教室も用意。

■ 株式会社ダスキン

企業・団体名	: 株式会社ダスキン	【実施体制】 出前授業の実施前には、事務局が電話やメール、FAXで学校との調整を行い、担当講師が必ず学校を訪問し、授業の内容、学習目標、内容、準備物、児童の状況等を確認。授業は、メイン講師1名と複数のサポート講師が実施。
企業・団体 URL	: http://www.duskin.co.jp/torikumi/gakko/	
実施プログラム	: 学校掃除教育支援活動 ～みんなでつくろう キレイをいっしょに～	
対象	: 小学校	
エリア	: 全国	
教育支援活動開始時期	: 2000年	

活動開始経緯

株式会社ダスキン暮らしの快適化生活研究所では、2000年度より学校の掃除が子どもたちに及ぼす影響について研究を始め、【掃除をテーマにした授業プログラムの開発とWebサイトによる無償教材提供】【現職教員との掃除に関する教育研究会や連携授業の実施】【東京学芸大学 大竹美登利教授と「学校掃除によって育成される力」についての共同研究】などを通して、学校掃除が子どもたちの「力」を伸ばす学習機会の一つであることを確信。それらの研究成果と実績を活かし、Webダウンロード版「ダスキン教育支援カリキュラム」、2008年度より教員向けセミナー「子どもたちの力を伸ばす学校掃除セミナー」、2012年度より小学校向け出前授業「キレイのタネまき教室「おそうじについて学ぼう！」」を展開。地域で出前授業を進める中で、土曜日の開催のご要望を多数いただくことが増え、地域・学校からのご要望にお応えする形で土曜日の活動を実施している。

活動の概要

- ・ダスキンでは「喜びのタネをまこう」の経営理念を実践し、「お掃除の会社」として、お役立ちできる教育貢献活動に取り組んでいる。「掃除の大切さを、次世代を担う子どもたちに伝えたい」「掃除を通して子どもたちの力を伸ばしたい」そんな想いを込めて、様々なプログラムを実施。
- ・小学校対象の出前授業については、学校掃除サポーター制度を発足し、学校に向く講師を育成する研修制度を確立、ダスキン本部と全国各地域の加盟店で、地域貢献の一環として学校教育支援活動に取り組んでいる。

活動の様子



- ・地域の特性を踏まえ、学校ニーズをもとにしたプログラム構成

出前授業「キレイのタネまき教室「おそうじについて学ぼう！」」の全国展開にあたっては、ダスキン本部のみの活動ではなく、本部と各地域のダスキン加盟店とが連携し、地域の加盟店スタッフが講師として出向くことで、地域性を理解したよりきめ細やかな対応ができる活動（地域貢献）を目指している。



- ・掃除のプロによる「子どもたちの力を伸ばす」ことに焦点を当てたプログラム内容

ダスキンは掃除の専門企業として、「掃除」をテーマにした地域貢献、教育活動支援を行っている。学校掃除用具である「ほうき」や「ぞうきん」の正しい使い方を、掃除のプロに教わることで、毎日の生活の中（学校や家庭での掃除）で実際に役に立つ知識や技能を習得する。

■ 株式会社富士通コンピュータテクノロジーズ

企業・団体名	: 株式会社富士通コンピュータテクノロジーズ	【実施体制】 家族での参加を重視しており、かつ社内のボランティア活動の推進のため、土曜日に実施。開催地域それぞれで産官学連携体制を実現し、エンジニアがトレーナーとして参加することで、社会のニーズを体感し、実業務につながる機会にしている。また、関係会社や同業種へも紹介している。
企業・団体 URL	: https://www.fujitsu.com/jp/fct	
実施プログラム	: 家族ロボット教室 「震災復興支援 家族ロボット教室」 「ものづくりを楽しもう 家族ロボット教室」	
対象	: 小学校3年生～6年生とご家族2名1組	
エリア	: 被災地域（岩手県他）、事業所近隣	
教育支援活動開始時期	: 2011年	

活動開始経緯

2011年3月の東日本大震災発生後、2011年5月頃から会社が主体となり、継続した復興支援活動ができないかと考え、また、理系離れが懸念される中、小さな頃からものづくりの楽しさを身近に感じてもらいたいと思い、弊社の特徴である「組込みシステム開発」技術を生かした「家族ロボット教室」を企画（2016年2月現在、岩手県内各地では42回開催）。2013年からは、CSR活動として事業所の周辺でも子ども達を対象に「家族ロボット教室」を実施している。

活動の概要

- ・自律型ロボットの教育版レゴ マインドストームを使用し、教室用に作成したオリジナルのロボット組立図を基にロボットを組み立て、組み立てたロボットにパソコンで作成したプログラムをダウンロードして走らせる。
- ・科学およびものづくりに対する興味を持つきっかけを作り、早期から最新のプログラミング技術、ロボット制御技術に触れることで、子供たちの将来の夢に「科学およびものづくり」の領域を含め、その裾野を広げることを目的とする。子どもと家族と一緒に楽しく作業することで、家族間のコミュニケーションを深めることも目的としている。
- ・教室の内容は「体験」が主体で子どもたちの自主性を尊重したものになっている。「なぜ?」「どうして?」から「こうしたらどうなる?」を通じて、「やった!できた!嬉しい!」を体感してもらうことが目標。

活動の様子



- ・教室では当社オリジナルの組立て図を見ながら組立て、工夫によって様々なロボットが作れることを知ってもらうとともに、ロボット制御プログラムは各自の工夫を優先。
- ・走る、曲がる、センサを使用して制御する等、ひとつずつ課題を消化し、最後に、決められたコースを逸脱せずに確実にゴールするトーナメント形式のレースを行うことで、子どもたちの目標を明確にしている。



- ・「答えを教わる」教室ではなく、「考えて工夫する」教室を方針としており、講師やトレーナーの指導では、子ども達の「なぜ?」「どうして?」から、「こうしたらどうなる?」「やった!できた!嬉しい!」を体感してもらうことを目指している。
- ・「もう一度やってみたい」という満足感をもって終了するよう「楽しく全員完走」が目標。そのために講師・トレーナーが担当の子どもに合わせてサポートする。

企業・団体名	: 一般社団法人全国銀行協会	【実施体制】 講師派遣の申込書（HP 掲載）に必要な事項を記入のうえ FAX で申込む。 テーマ・希望日等を確認のうえ、2 週間前後で実施可否を決定し、必要に応じて講義内容を調整する。
企業・団体 URL	: http://www.zenginkyo.or.jp/education/	
実施プログラム	: 全国銀行協会「土曜日特別出張講座」 生活設計・マネープランゲーム、銀行のしごと	
対象	: 中学校 1～3 年生	
エリア	: 全国	
教育支援活動開始時期	: 2014 年	

活動開始経緯

「主体的に行動できる児童・生徒の育成に貢献したい」という想いのもと、学校等に民間の金融団体という特徴を生かした教材の提供・講師派遣などの金融経済教育活動を実施。文科省「土曜日教育活動推進プロジェクト」の趣旨等に賛同し、2014 年 12 月、土曜学習応援団として登録。

活動の概要

- ・民間の金融団体という特徴を生かし、「人生におけるお金のこと」「銀行のこと」という社会で役立つ知識に特化したプログラムを提供。両プログラムともアクティブ・ラーニング要素を取り入れた受講者が能動的に参加・学習できる構成で、当事者意識を抱きにくい金融・経済分野において興味関心を高める内容となっている。
- ・教材や資材は無償で提供。生徒用教材の他に、指導者用として授業進行用スライド、進行台本等を用意しており、教師が単元授業として取り組む際に、準備負担が少ないプログラム構成・内容となっている。
- ・中学校向けに実施している「土曜日特別出張講座」は全国どこでも無料で駆けつけるので、「将来の進路を考えるキャリア教育として」、「授業の導入やまとめとして」、土曜日における充実した学習機会を提供する方策の一つとして活用されている。

活動の様子



「生活設計・マネープランゲーム」

カードゲームを使って、人生には様々な選択があることに気付くと同時に、計画性を持って生活していく必要があることを体験を通して理解することができる。

結果を板書し、クラスで情報を共有している様子。班での話し合いや意思決定、結果発表による比較により新たな気づきを引き出す。



「銀行のしごと」

銀行の役割についての基礎知識習得、職業選択の意識付けに役立つほか、模擬紙幣で銀行員になりきってお札を数える業務（札勘）の体験もある。

銀行員になりきり札勘を練習している様子。

将来社会で自分らしい生き方を実現するためのきっかけ、進路の探索の意識づけに。

■ 日本証券業協会及び協力協会員(証券会社)

企業・団体名	: 日本証券業協会及び協力協会員 (証券会社)	【実施体制】 「土曜学習応援団」だけでなく、都道府県並びに市町村が構築している「地域による学校教育支援団体」にも登録し、地域教育支援担当者とも連携し、マッチングを図っている。
企業・団体 URL	: http://www.jsda.or.jp/	
実施プログラム	: チャレンジ！お菓子の株式会社	
対象	: 小学校高学年～中学生	
エリア	: 全国	
教育支援活動開始時期	: 2014年	

活動開始経緯

本協会では、以前より学校教育現場における金融・経済教育の普及・啓発に取り組んでおり、文部科学省から平成26年度に「土曜学習ボランティア応援団」への登録要請を受けました。その後、小学生、中学生向けの学習プログラムを使った出前授業を提供することとし、7月に文科省が組織する「土曜学習ボランティア応援団」への参加を申請しました(8月中旬、文科相HP掲載)。以降、全国主要都市の教員委員会等を訪問、土曜学習等の実施状況等に関する情報を収集するとともに、本協会が提供する出前授業の利用を働きかけています。

活動の概要

- ・「チャレンジ！お菓子の株式会社」は、会社経営を通して株式会社の仕組みやお金の流れ(資金調達)を体験する、アクティブ・ラーニングの要素を含んだ学習プログラム。
- ・最初に、グループに分かれて新商品の企画(商品のネーミングやコンセプトの設定)と開発(お菓子のパッケージデザイン)を行い、各グループが事業の内容を発表。その発表内容をもとに、児童それぞれが模擬紙幣を使って“応援したい”と思った株式会社(グループ)へ投資(投票)し、株式会社と株式の関係を体験的に学習。

活動の様子



児童にとっては難しい株式会社と株式の仕組みを児童の誰もが考えられるお菓子を素材にして楽しく学んでもらうだけでなく、身の周りに多数存在する株式会社で働く多くの人の努力が社会を豊かにしていることも理解してもらえるよう接しています。

児童には周囲の人たちと協力して成果を得ることを通じて学習意欲やコミュニケーション能力の向上に結びつけてもらうことを意識しており、時には保護者やコーディネーター等の関係者にも参加いただいています。



班のメンバーで話し合っ、まずは社長や会社名を決めます。その後、お菓子の種類、食べてもらいたい人、セールスポイント(ほかの会社の商品にはない自分たちの会社の商品の良いところ)、商品名を考えます。

話し合っ決めた計画をもとに、作業を分担しながら全員で協力してお菓子のパッケージを作ります。

■ 野村グループ

企業・団体名	: 野村グループ	【実施体制】 全国各地に160支店がある強みを生かし、地域貢献活動として支店の社員が手伝い等として参加することが多い。地域とのつながりを深める貴重な機会として今後も続けていく予定である。
企業・団体 URL	: http://www.nomuraholdings.com/jp/csr/society/education.html	
実施プログラム	: 生きた経済を教える ― 野村の土曜授業プログラム	
対象	: 小・中・高校まで全学年	
エリア	: 全国	
教育支援活動開始時期	: 2000年	

活動開始経緯

野村グループは従前から幅広い世代にむけて、金融・経済を教える出張授業プログラムを用意している。教育機関等より、土曜日の開催の依頼が増えたことにより、土曜日にもプログラムを実施している。活動時期は年間を通して行っている。

活動の概要

- ・社員が直接地域の学校等を訪問し経済や社会の仕組みを教えるアクティブ・ラーニングを取り入れた無料の出張授業プログラムを提供。
- ・文部科学省の「土曜日の教育活動推進プロジェクト」に呼応した土曜授業も実施しており、学校のみならず、公民館などの地域の活動にも提供。授業時間や参加人数、あるいは学校からの要望に応じて複数のプログラムを融合したり、新規にプログラムを用意するなど臨機応変に対応している。
- ・金融業界の最前線で活躍する野村グループの社員が子どもたちと触れ合い、外国為替の基礎や会社の役割、投資やライフプランの必要性など、生きた経済を教える授業は学校等から高い評価をいただいている。授業を実施する学校や地域のOB・OG社員が参加し、キャリア教育の観点から講師自身の体験を話す等、効果的な教育活動ができるよう取り組んでいる。

活動の様子



学校等主催者側の意向により、複数のプログラムを融合させるなど臨機応変に対応している。

例えば、神奈川県の高校で高校生向けプログラムを実施した際、学校側から講義だけではなくゲーム等を取り入れてほしいという要望があり、小学生向けプログラムの株式ゲームの一部を取り入れた。

中学ではキャリア教育の一環として職業紹介を依頼されるケースが多く、その際は証券会社の説明を、別途スライド準備して行うこともある。



土曜日授業では、要望に応じて、保護者の方々も子どもたちとともに参加できるようプログラム内容をアレンジしたり、年間約80件の出張授業を実施している経験を踏まえ、より良い授業になるように提案をおこなったりしている。

地域の新聞、TV等、メディアが入ることもあり、取材に協力し地域でのプレゼンス向上に努めている。

■ パナソニック株式会社 エコソリューションズ社

企業・団体名	: パナソニック株式会社 エコソリューションズ社	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">【実施体制】</p> <p>授業実施の1か月前から事前打ち合わせを行い、学校の要望に対応。当日は先生も子ども達と一緒に参加してもらおう。授業終了後は宿題の省エネ体験の結果を学校へ報告し、継続的な実施につなげている。</p> </div>
企業・団体 URL	: http://panasonic.co.jp/es/company/education/index.html	
実施プログラム	: 「あかり」「太陽光発電」での『快適&エコ』を考える 次世代教育プログラムの提供	
対象	: 小学校高学年（4～6年生）、中学生、高校生	
エリア	: 全国	
教育支援活動開始時期	: 2008年	

活動開始経緯

2008年から松下電工株式会社（当時 現パナソニック株式会社）のCSR活動の一環として「次世代教育」を掲げ、事業である照明をテーマにした「あかりのエコ教室」のプログラムを開発し、小学校への出前授業や工作教室を展開。2010年には太陽光発電をテーマにした「エコと太陽光発電教室」のプログラム開発を行い、提供を始めた。2009年には乾電池でLEDを点灯する行灯の工作教室「LED工作教室」をスタート。実際のLEDを使った行灯を楽しみながら組み立て、行灯は、家に持ち帰り、実用することでLEDの特徴である「小型」「光の色の合成」「長寿命」などに長期間にわたって触れる機会を提供している。2011年の東日本大震災以降、被災地の復興支援のため継続してこれらプログラムを提供している。

活動の概要

- ・事業分野である「あかり（照明）」「太陽光発電」に関して、学習プログラムを有している。出前授業のプログラムは、2プログラム（「あかりのエコ教室」「エコと太陽光発電教室」）あり、独自で制作した実験装置を使用することで学習の効果を高めた。
- ・「LED工作教室」は、子ども達がものづくりを楽しみながら、生活に役立つLEDの行灯を制作するプログラムである。部品の位置あわせやドライバでねじ止め、また、糊付けでは敢えて直接、指でのりつけをするなど最近ではあまりしなくなった作業も盛り込み、ものづくりの経験の機会を与えている。

活動の様子



プログラムでは、実際の電球・太陽電池パネルやLEDに触れ・動作させ、気づいてほしいことを講師が誘導することであまり知られていない特徴も読み取り、その結果について子ども達が予測・話し合い、まとめ・発表する。

授業の中で得た内容を行動に定着させるために、授業後宿題として「エコ活動1週間チャレンジ」実施してもらう。この「節電する行動」を宿題として子ども達が定着することで、家族全体での「節電する行動」の習慣化を図っている。



東日本大震災発生以前より提供している「あかりのエコ教室」は、LED照明がエコ（省エネ）で快適な照明であることを体感してもらってきた。

東北復興支援としてプロジェクトチームを編成し、被災地の復興支援のため、地域との交流を行いながら、子ども達の将来が広がるように地域で開催されている各種イベントでこれらプログラムを実施し、楽しみながらできる学習の場を提供している。

実際に被災地での「LED工作教室」や「あかりのエコ教室」にご参加された子ども達からは「LEDのあかりをみてほっとする」「LEDにすれば省エネになる」など安心感を与えてきたものと考えている。

コーディネーターの部

専門的な知識、経験に基づき、土曜日の教育活動プログラムや
マッチングサービス等を提供することで、
企業や学校が行う土曜日の教育活動を支援するコーディネーター組織

■ 一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会

企業・団体名	: 一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会	【実施体制】 多様な社会人が参加し、それぞれのリソースを生かしながら、子どもを中心に添えた活動を展開。全国に広げるために、WEBサイトやfacebookを使用し、活動の様子を発信。学校・教員の参加も可能となり、学校のリクエストに応じたメンバーを募ることも可能。
企業・団体 URL	: http://otona-honki-pj.jimdo.com	
実施プログラム	: 大人の本気総動員プロジェクト	
対象	: 小学生～高校生など	
エリア	: 東京都等	
教育支援活動開始時期	: 2015年	

活動開始経緯

キャリア教育コーディネーターとして企業・学校をつなぐ活動をする中、下記に対しての課題意識を持っていた。

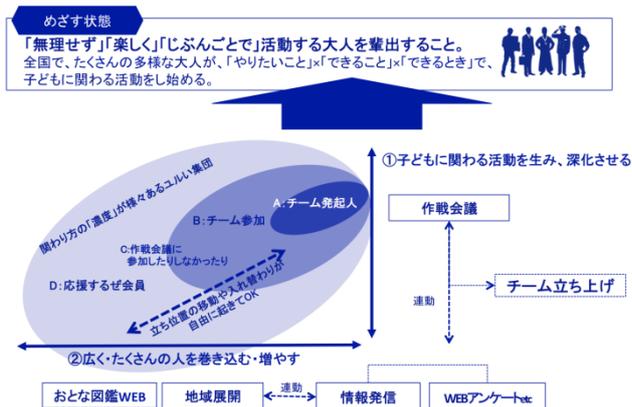
- ・東日本大震災以降、社会貢献意識が高まり、何らかの形で教育支援をしたいと考える社会人が増えている。
- ・一方、休日出勤となることから土曜日の授業を嫌がる企業もあるなど、「企業としての活動」になると実現がむずかしくなってしまうケースも多い。企業の枠にとらわれず、個人が、個人の時間を活用して、教育支援に関わることでできる機会作りが求められる。(※同時に、個人を軸にして企業へと活動・理解を広げていくことも必要。)

これらの課題意識を受け、多様な方法で子どもの教育に関わる大人を増やすことが必要と考え、2015年7月に「大人の本気総動員プロジェクト」を発足させた。

活動の概要

- ・「大人の本気総動員プロジェクト」は、特定の教育プログラムを持つ活動ではない。「無理をせず」「楽しく」「じぶんごとで」活動する大人を輩出することを目指している。
- ・たくさんの多様な大人が、「やりたいこと」×「できること」×「できるとき」で子どもに関わる活動を「し始める」(行動を起こす)状態を作る。具体的には、社会人が、自らやりたいことを宣言し、チームメンバーを募り、子どもに関わる活動をイチから作り上げ、実行まで行う。

活動の様子



以下2つの方向から、教育支援を行う大人のプラットフォームを構築。

- ①子どもに関わる活動を生み、深化させる
- ②広く・たくさんの社会人を巻き込む

2015年12月現在、3人が発起人として立候補し、3チームが活動準備を進めている。

●街の探検隊

子どもと一緒に街歩き。その地域の歴史を語りながら歩く。子どもたちが「自分で調べたい」という興味を持つきっかけ作りができる学びの場に。

●課題解決 PBL

高校生が課題発見力、課題解決力、考えを発信する力を養うプログラムを作る。お題をいただける企業、また、企画の立て方などアドバイスしてくれる方をメンバーから募集。当面の活動では「新規事業の作り方講座」を高校生用にアレンジし、展開可能性を探る。

●マイワンピース

子どもたちの強み・宝(マイワンピース)を探しにいく、ワークショップやイベント企画。マイワンピースを見つけることは、子どもたちの自信につながるはず。コンテンツは、参加メンバーの持っているリソースを生かしながら、作っていく。



■ NPO法人キッズバレイ

企業・団体名	: NPO 法人キッズバレイ	【実施体制】 プログラムの実施には、行政や教育委員会の協力を得て、桐生市内の全小学校へチラシを配布。 市民先生を探すため、町の様々な団体と協力し、紹介してもらっている。
企業・団体 URL	: http://kids-valley.org/	
実施プログラム	: きりゅうアフタースクール	
対象	: 小学校 1～6 年生	
エリア	: 群馬県 桐生市	
教育支援活動開始時期	: 2014 年	

活動開始経緯

桐生の子どもたちは歴史・文化があり自然豊かな恵まれた環境にありながらも、共働き家庭が多く、体験の機会が乏しいです。また、少子化により子ども会が消滅するなど、子どもたちが地域の大人とで買いう機会が減少している現状にもあります。そこで、子どもたちが地域の大人と出会い、さまざまなプログラムを通じ失敗・成功体験を繰り返して、学び合うことで子どもたちの生きる力を育むために、2014 年より毎週末に体験プログラムを実施してきました。

活動の概要

- ・NPO 法人キッズバレイは、「まちのどこでも教室に！まちの誰もが先生に！」を合言葉に、市の後援を受け『きりゅうアフタースクール』を開講している。
- ・桐生市内の小学生を対象に、地域のおとなに市民先生になってもらい、さまざまな体験プログラム開催。子どもたちが目を輝かせ、好奇心を膨らませる体験の場を日常的にしたいという思いから、プログラムは毎週末に開催している。

活動の様子



- ・まち中を学びの場と捉え、市内各所でプログラムを実施。
 野外活動センター
 野外グラウンド
 黒保根の畑
 青年の家（体育館、集会所）
 調理室
 動物園
 河川敷 など、桐生市内には多様な施設があり、プログラムに応じてまち中の会場を活用しています。
- ・日常の中にいつでも学びの場を提供するため、毎週末欠かさずプログラムを実施



- ・地域の大人が「市民先生」となることで、子どもが地域の大人と出会う場をつくる
- ・異学年での学び合いを促進するため、「キッズバレイでのルール」をつくり、毎回プログラムを開始する前に子どもたちと約束しています。
 1. 誰かが話をするときは、最後までしっかり話を聞こう！
 2. 年下の子や、困っている子がいたら、みんなで手伝い、協力して活動しよう！
 3. 何かを決める時は、必ずみんなが意見を言い、みんなで決めよう！
 4. プログラム中は、集中して参加しよう！
- ・友達同士で参加した子どもも、活動の中では多様な子ども同士でグループをつくる

■ NPO 法人アスクネット

企業・団体名	: NPO 法人アスクネット	【実施体制】 教育委員会と連携し、生徒への案内を実施。生徒の様子を毎月各中学校の担任教諭に共有し、学校からの返信をもらうことで情報共有を図る。地域団体も巻き込み、協働して活動を行う。
企業・団体 URL	: http://www.asknet.org	
実施プログラム	: 教育コーディネート事業	
対象	: 愛知県高浜市内中学校 中学校 1～3 年生	
エリア	: 愛知県	
教育支援活動開始時期	: 2015 年	

活動開始経緯

以前、高浜市と別の事業で業務を行った実績があり、今回学習支援という教育分野での事業のため、教育コーディネート事業を行うアスクネットに相談があった。4月に業務委託契約を締結後は、主体となる高浜市地域福祉グループと支援内容について協議を重ねて支援内容を確定していった。あわせて、教育委員会、地域団体などへの協力依頼を行い、活動開始に向けた地域の理解を図っていった。

活動の概要

- ・愛知県高浜市からの事業委託として、生活困窮世帯に属する中学生を対象とした学習等支援事業を NPO 法人アスクネットが受託。平成 27 年 7 月 25 日に教室を開始し、毎週土曜日を基本として、今年度は 50 回の教室を実施。
- ・今年度の支援対象者は、高浜市内に居住する生活困窮世帯（生活保護受給世帯・就学援助受給世帯）に属する中学生とし、毎回 9 時 30 分から 16 時まで実施している。
- ・支援内容は、学習の遅れや理解不足へのフォロー、進学に向けた学習指導などの「学習支援」と、生徒のキャリア教育の視点を重視した「関係性作り」を基本としている。学習支援は、愛知県内の大学生約 20 名を中心にしたボランティア「チャレンジサポーター」が担当。学習時間は 70 分を一区切りとし、生徒はチャレンジサポーターとともに毎時間目標設定と振り返りを行い、自ら学習をする習慣作りを目指している。関係性作りでは、毎月 1 回程度、キャリア教育の視点を盛り込んだイベントを実施している。職業に関する講座、留学生との交流、大学生が企画した英語とハロウィンの授業、生徒が企画したクリスマス会など、生徒・大学生・地域の大人を巻き込んだイベントを実施している。

活動の様子



【学習支援】

- ・学習が遅れがち、欠席が多いなど、学校で手が行き届きにくい生徒への個別対応。
- ・今後の自立した学習習慣を目指し、目標設定や振り返りを重視した学習支援を実施。
- ・少人数のグループ学習を基本とし、中学生同士でも他者を頼り、他者から頼られる経験を増やす。
- ・毎月生徒の様子を各中学校の担任教諭に報告し情報共有を図る。



【関係性作り】

- ・社会との接点が少ない、不登校気味、特別支援学級に所属など、困難を抱えた生徒が学校を含む社会生活に適應できるよう、コーチング研修を受けたチャレンジサポーターがコミュニケーションを重視した学習支援を行う。
- ・キャリア教育の視点を重視したイベントを月 1 回程度実施。職業に関する講座を中心に、自身のキャリア形成、コミュニケーション、自己理解などについて考える機会を作る。

■ 京西中学校区地域教育協議会

企業・団体名	: 京西中学校区地域教育協議会	【実施体制】 地域教育協議会は、学校を中心に地域、保護者で子どもを育むことを目的としており、活動内容は学校のニーズを受け、教育活動の支援となるよう実施している。地域のコーディネーターが学校と地域住民を結びつける役割を担っている。
企業・団体 URL	: 京西中ホームページ内の「地域連携」参照 http://www.naracity.ed.jp/keisei-j/	
実施プログラム	: 学校支援活動	
対象	: 京西中学校区の小学生、中学生、保護者、地域住民	
エリア	: 奈良県奈良市	
教育支援活動開始時期	: 2008年	

活動開始経緯

平成20年度に国の事業である「学校支援地域本部事業」を、市内全ての中学校区で実施するにあたり京西中学校区でも学校と地域で協議がなされ、学校、PTA、自治会、少年指導協議会、学校評議員、民生児童委員が協議会の役員となり、地域教育協議会が組織された。同時に複数のコーディネーターが登録された。また、校区内の各学校園(1中、2小、2園)に運営委員会が組織された。その後、協議会では中学校区全体の取組、委員会ではそれぞれの学校園独自の取組を実施している。

活動の概要

- ・地域教育協議会では、中学校区での「めざす子ども像」を学校と共有し、子どもの現状や地域の課題を把握し整理したうえで、事業を展開している。
- ・奈良市では、地域遺産から郷土を大切に思う気持ち・文化財を尊重する態度・環境や平和を守る態度・人権を守る態度・進んで異文化を理解しようとする態度・奈良のよさを発信しようとする態度・コミュニケーション能力を育むことを目的に世界遺産学習が展開され、京西校区でも「史跡散策&清掃作業」として取り組まれてきた。
- ・「京中オープンスクール」は、地域を題材に学習した子どもが、将来社会を生き抜く力を育成するためのキャリア教育の一環として、子どもの自立への意欲を向上させる取組として実施されている。
- ・これらの取組は校区に公開されていて、核家族が多く家族や異年齢の人々が交流する機会の少ない校区としては有用な取組となっている。

活動の様子



「京中オープンスクール」では、毎年30人近くの人材を多様な分野から来ていただけるよう地域の企業、施設、人材に働きかけている。27年度は赤膚焼の窯元、唐招提寺、卒業生の美容師、地元の銀行の支店長、校区の高校の図書館司書、福祉施設の方、音楽家など多様な分野から31人をゲストティーチャーとして招聘した。



「史跡散策&清掃作業」については、主に周辺の寺社や史跡、伝統産業の工房などに積極的に働きかけ、その趣旨を理解のうえ協力をしていただいている。27年度は唐招提寺、墨の資料館、喜光寺、菅原天満宮などの協力を得た。

年3回『京(けい)チュン通信』を発行し、自治会の協力を得て校区全戸(約6,000戸)に配付している。また事業への参加については自治会を通じても呼びかけている。

《土曜日の教育活動 事例集》

発行：文部科学省

編集：株式会社キャリアリンク

平成 28 年 5 月
